

平成 31 年・令和元年（2019 年）の知床硫黄山の火山活動

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報の状況、2019年の発表履歴

2019 年中変更なし | 噴火予報（活火山であることに留意）

○2019年の活動概況

- ・火口や噴気の状況（図1～3）

7月29日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、山頂付近や北西側中腹の爆裂火口などに噴気は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測では、北西側中腹の爆裂火口で弱い地熱域を確認しましたが、前回（2018年7月）と比較して特段の変化は認められませんでした。

またカムイワッカ川の河口付近の海岸には、前回と同様に温泉水による変色域が確認されました。

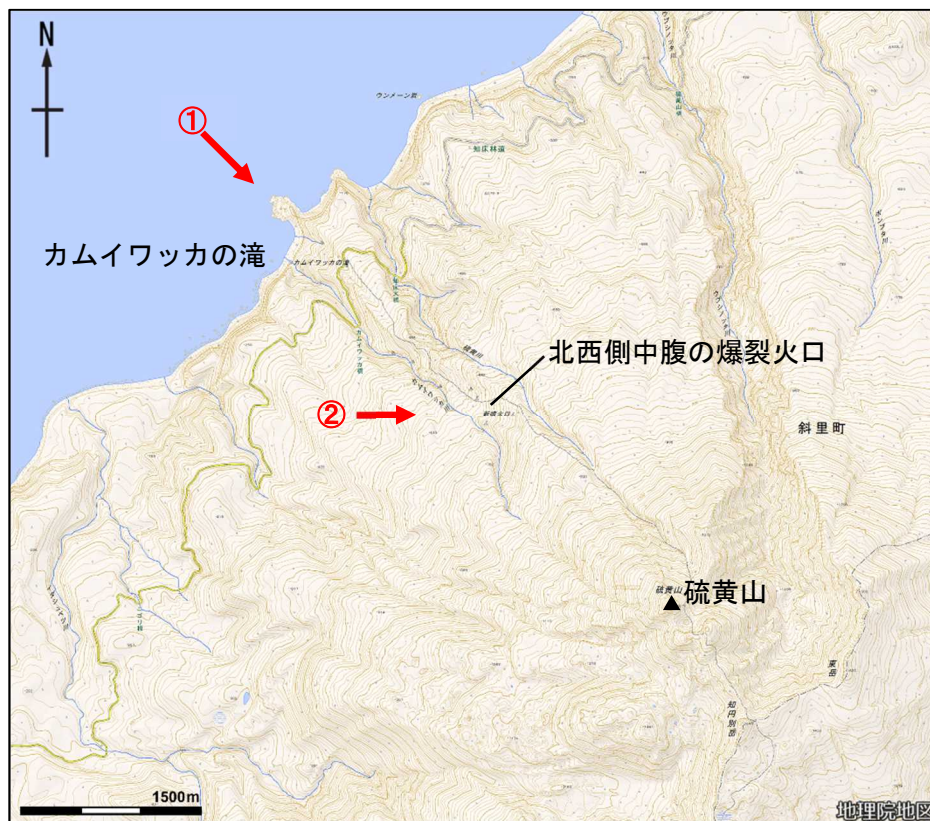


図1 知床硫黄山 周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向(矢印)

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平 29 情復、第 958 号）。



図 2 知床硫黄山 山体および海岸付近の状況 北西側（図 1 の①）から撮影

- ・噴気は認められませんでした。
- ・海岸付近には温泉水による変色が認められました。

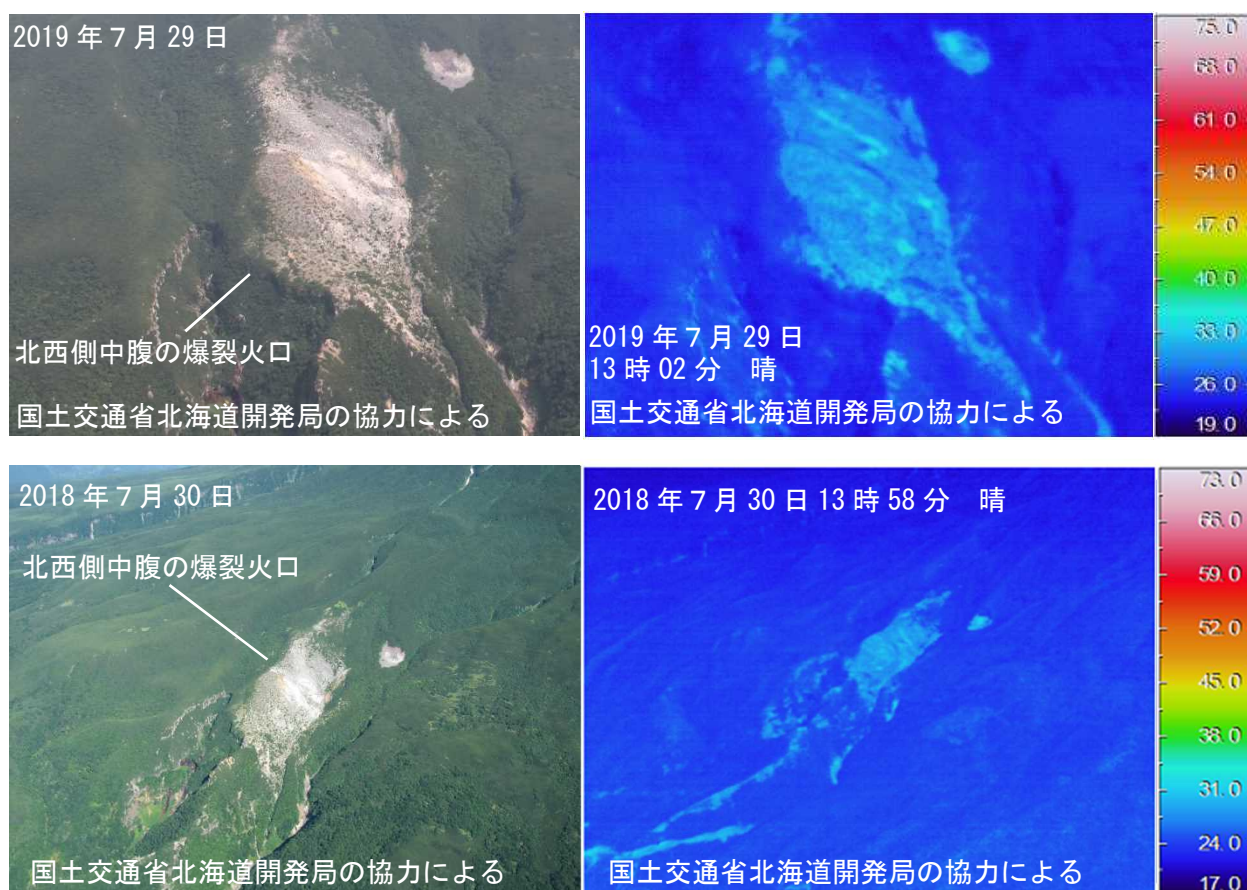


図 3 知床硫黄山 赤外熱映像装置による北西側中腹の爆裂火口の地表面温度分布

上図は北西側（図 1 の①）、下図は西側（図 1 の②）から撮影

- ・北西側中腹の爆裂火口で弱い地熱域を確認しましたが、前回（2018 年 7 月）と比較して特段の変化は認められませんでした。